

Ⅱ 調査の概要

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。なお、公立学校には公立大学法人が設置する学校（公立大学附属学校）を含む。
 - ア（小学校調査）小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 - イ（中学校調査）中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
- ② 障害のある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字・ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定などの配慮を可能とする。

特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒については、原則として、当該事由に係る教科に関する調査の対象としない。

 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合
- ③ 日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。ただし、例えば、国語、算数・数学及び理科の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

【出題内容】 ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
【調査問題】 ・上記アとイを一体的に問う。 ・記述式の問題を一定割合で導入する。

※ 中学校理科は、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施。

- ② 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※ 質問調査は、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いて実施。

(4) 調査実施日

令和7年4月17日（木）

児童質問調査

令和7年4月18日（金）～4月30日（水）のうち1日（学校ごとに指定）

生徒質問調査、中学校理科

令和7年4月14日（月）～4月17日（木）のうち1日（学校ごとに指定）

(5) 調査を実施した本県の県立及び市町立学校数、児童生徒数

	学校数	児童生徒数 (国語)	児童生徒数 (算数・数学)	児童生徒数 (理科)	児童生徒数 (質問調査)
小学校調査	149 校	7,441 人	7,443 人	7,433 人	7,476 人
中学校調査	64 校	7,095 人	7,098 人	6,909 人	7,067 人

※ 本報告書では、国立、私立を除いた公立小・中・特別支援学校の結果を掲載している。

2 調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

(1) PBT で実施する教科に関する調査の結果

- ① 国語、算数・数学、理科のそれぞれの教科（以下「各教科」という。）に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等
- ② 各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ
- ③ 各教科の設問ごとの正答率等
- ④ 各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

(2) CBT で実施する教科（R7 は中学校理科）に関する調査の結果

- ① 教科に係る問題の全体の IRT スコア等
- ② 教科の IRT スコア等の分布等が分かるグラフ
- ③ 教科の公開問題の設問ごとの正答率等
- ④ 教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

(3) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果

- ① 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況
- ② 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況と教科に関する調査の正答率、IRT スコア等との相関関係の分析

(4) その他調査の目的の達成に資する分析



3 調査結果の活用

各教育委員会、学校等及び文部科学省においては、調査の目的を達成するため、以下のような調査結果を活用した取組に努めることとする。

- ① 各教育委員会及び学校等においては、調査結果の分析やこれを活用して教育及び教育施策の改善等に向けた取組等を進めるための体制を整備した上で、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。
- ② 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。
- ③ 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。
- ④ 文部科学省は、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善に取り組むこととする。また、各教育委員会及び学校等における取組に対して必要な支援等を行うなど、教育及び教育施策の改善に向けた全国的な取組を進めることとする。

4 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

その際、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

数値、グラフ等を見るうえでの留意点

■ 1 調査結果の推移について

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度より実施(平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度・令和 2 年度は未実施)されているが、本報告書では、過去 5 年間(令和 3 年度以降)の回答状況を分析している。

なお、「全国的な学力調査の今後の改善方策について」(平成 29 年 3 月 29 日)では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成 29 年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されている。

■ 2 数値について

表記された数値は、端数処理のため 0.1 の誤差が生じることがある。

■ 3 差について

「差」を表しているグラフや表の数値は、香川県の数値から全国の数値を引いたものを表す。

活用ツールで自校のデータを CHECK

本報告書では全国と香川県の状況を分析して掲載しています。活用ツール(Excelファイル)を使えば、全国と香川県の状況に加え、**自校の状況をグラフや表に表示、経年比較したり、作成されたグラフ等ファイル内の表を貼り付けて活用したり**することができます。

① 活用ツールのダウンロード

香川県教育センターWebサイトから活用ツール(Excelファイル)と使用説明(PDFファイル)をダウンロードします。
(認証領域にログインが必要です。)

香川県
教育センター
Web サイト



<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/>

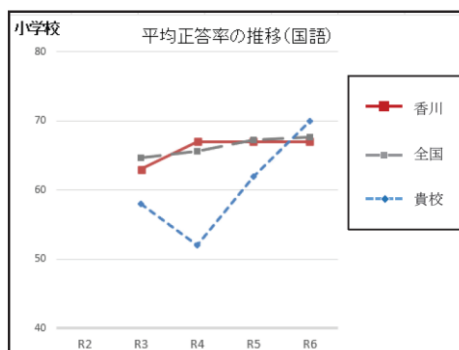
② 自校のデータの用意

文部科学省指定のWebシステムからダウンロードした調査結果の電子データをコンピュータのデスクトップに展開します。(別途文部科学省から送付されているはがきのパスワードが必要です。)

③ 活用ツールの起動

必要なファイル名を選び、ボタンを押すと、データを読み込むことができます。

※ 児童生徒質問調査については、質問項目ごとに、回答状況を示す帯グラフ、令和 3 年度からの経年変化を示す折れ線グラフが表示されます。



学力調査を活用した「カリキュラム・マネジメント」

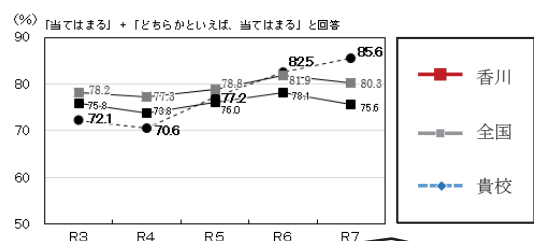
全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査からは、多様なデータを得ることができます。普段から気になっていることについて、根拠を見付けたり、把握していなかった成果や課題に気付いたりすることができるようになります。この2つの調査を学校にとっての定期健診(学校ドック)と考え、十分に活用しましょう。

全国学力・学習状況調査では、国から届いた「各学校の結果データ」や「支援ツール」とともに、香川県教育センターが作成した「活用ツール」や「報告書」等を使って、全国と香川県、そして各学校の状況を比較しながら、自校のよさや課題を明確にしましょう。

分析の際は、次のような観点から学校や児童生徒の状況をみる事で、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(カリキュラム・マネジメントの充実につなぐこと)が大切です。

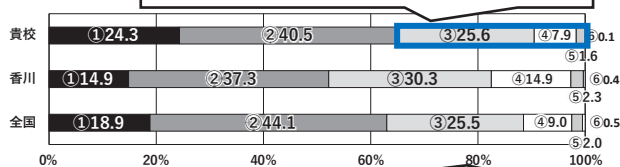


○ 目的に応じたグラフを用いて、児童生徒の状況を捉える。



折れ線グラフで表すことで、経年で児童生徒の変容を捉えることができます。

否定的な回答をした児童生徒の割合を視覚的に捉えることもできます。



帯グラフで表すことで、本年度の児童生徒の回答状況を、より詳しく捉えることができます。

○ 学校の取組と、児童生徒の意識の変化や教科に関する調査結果との関連を図る。

(例)

現職教育テーマの「主体的に学ぶ子どもの育成」に、関連する質問項目はどれだろうか？

どのような取組が成果につながったのだろうか？



児童生徒質問調査だけでなく、学校質問調査の項目も分析しよう。

教科の調査では、どの調査問題が「読解力の育成」に関わっているのだろうか？

そのうえで

- 育成したい力を具体化したり、現時点での取組を見直したりして、改善を図る。
- 全国調査と県調査の結果を関連させて、PDCA サイクルを検証する。



活用ツールの使い方だけでなく、調査結果の活用や調査結果を基にした取組等、各学校で困っていることがありましたら、香川県教育センターの「研究相談」や「研修サポート」をご利用ください。

香川県重点項目に関わる質問事項

重点項目	Q & A (ページ)	質問 番号	質問事項
学習意欲	Q 1 (P38)	16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか
		32	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか
		36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
		39	授業や学校生活では、友達や周りの人を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
		45、53、61	国語（算数・数学、理科）の勉強は好きですか
		46、54、62	国語（算数・数学、理科）の授業の内容はよく分かりますか
言語活動	Q 2 (P40)	31	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
		35	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
		51/※	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか
		※/59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか
		69/※	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか
学習習慣	Q 3 (P42)	17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
		21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍に読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）
		24	読書は好きですか
自己有用感等	Q 4 (P44)	5	自分には、よいところがあると思いますか
		6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
		7	将来の夢や目標を持っていますか
		8	人が困っているときは、進んで助けていますか
		9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
		11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
学校生活	Q 5 (P46)	10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
		12	学校に行くのは楽しいと思いますか
		13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
		14	友達関係に満足していますか
		41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
		42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか